

## 第4回 学力向上のための教育課程見直し懇話会

日 時：平成27年9月29日（火）  
午後5時～午後6時半  
場 所：市役所11階  
教育委員会議室

### 会 議 次 第

1 開 会

2 議事

○ これまでの懇話会の意見の総括

3 閉 会

## 1 趣旨

夏休み期間の短縮や土曜授業の実施など、年間を通した教育課程を見直し、児童生徒一人ひとりの課題に応じた、補足的な学習や発展的な学習を行うことで、児童生徒のさらなる学力向上を図るとともに、夢を育み、心を育てる。

## 2 見直しの理由、背景

### 児童生徒一人ひとりの学力向上

- 福岡市の学力実態は、ほぼ全国平均と同等であるが児童生徒の学力には開きがある。
- 児童生徒一人ひとりの学力課題に応じたきめ細かな取組がさらに必要であるが、現行の学習指導要領で定められた標準時数では、十分な取組みが困難である。

### 教育環境の改善

- 小中学校の普通教室へ空調を整備し、夏季における学習環境が整った。

### 土曜授業の動向

- 平成25年度から教育委員会判断で実施可能となり、全国的にも、近隣自治体でも実施が進む。

## 3 見直しの内容

始業日・終業日の見直し  
(※夏休み6日減、春休み2日増)

4日

土曜授業(半日)の実施  
(児童生徒の代休日は設けない)

4日

年間で最大8日間の授業日数(約30時間)を生み出し、授業を先に進める学習ではなく、児童生徒の学力課題に応じた補足的な学習や発展的な学習に充てる。

### (1)補足的な学習

学力課題の大きな児童生徒に基礎的な知識・技能の確実な定着を図る。

- ・習得が不十分な内容を学び直す学習
- ・類似問題、ドリルの取組を繰り返す学習
- ・少しずつ難しい問題へと積み重ねる学習

### (2)発展的な学習

知識・技能の習得が十分な児童生徒の思考力や表現力などの伸長を図る。

- ・思考しながら、理解を深める学習
- ・調べたことを表現しながら、知識を広げる学習
- ・より高度な学習内容を選んで、自ら進める学習

### (3)「代休日を設けない土曜授業」

家庭や地域との「共育」を推進しながら、児童生徒の夢を育み、心を育てる。

- ・**道徳教育の推進**  
地域人材を活用した道徳の時間の授業 等
- ・**キャリア教育の推進**  
アントレプレナーシップ教育、立志式、2分の1成人式 等
- ・**国際教育の推進**  
ゲストティーチャーやネイティブスピーカーを活用した英語の授業 等

## 4 これまでの検討経緯

時期	実施概要
平成27年6月26日	6月議会の第2委員会へ教育課程見直し(案)を報告
平成27年7月上旬	保護者・教職員アンケート(約1,000名ずつ)、市政アンケート(約600名)を実施
平成27年8月～9月	「学力向上のための教育課程見直し懇話会」を開催(8/3, 8/27, 9/15, 9/29)

## 5 アンケートの結果概要

### アンケートについて

- ①保護者アンケート:配布数1,008件、有効回収数893件
  - ・約8割が賛同。
  - ・賛同する主な理由は「学習時間が増え、学力向上が期待できる」など
- ②教職員アンケート:配布数1,030件、有効回収数905件
  - ・約3割が賛同。
  - ・自由記述の意見として「教職員の多忙感への不安」が多くあがっている。
- ③市政アンケート:配布数634件、有効回収数563件
  - ・約8割が賛同。
  - ・賛同する主な理由は「学習時間が増え、学力向上が期待できる」など

### 懇話会について

資料②「これまでの懇話会の状況」を参照

## 6 今後のスケジュール

時期	実施概要
平成27年10月中旬	決算特別委員会において第2委員会へ報告
平成27年11月末まで	教育委員会で教育課程見直しの方針を決定
平成28年4月～	教育課程見直し実施

1 これまでの懇話会の状況

第1回懇話会 (H27. 8. 3)	
議題	① 懇話会設置要綱や進め方等の確認 ② 教育課程見直し案について (見直しの背景, 見直しの具体的な内容, 見直しに伴い検討している主な内容など) ③ アンケートの実施について
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>見直しの方向性は賛同するが, 土曜授業には, 地域や保護者が主体的に関わり教員の負担軽減を図ることが必要である。</li> <li>補充的, 発展的な学習の年間指導計画への位置付けについて, 工夫が必要</li> <li>夏休み期間中, 連絡を取り合う機会がないので, 今の子どもは友達と遊べない。早く学校に行って友達と遊びたいという子どもも多い。</li> <li>質の高い授業を行うために, 教材研究など教員の力量を高める時間の確保も重要である。</li> <li>年休取得による教員の健康保持は, 質の高い授業の基盤である。</li> <li>方法論として8日増やす方法で学力が上がるのか, 丁寧な説明が求められる。</li> <li>全体的な見直しの方向性は良いと思うが, 教員の授業力向上施策や教員の負担軽減策などとあわせて, トータルでの学力向上を図っていただきたい。</li> <li>子ども同士で教え合う工夫も大切である。</li> </ul>
第1回懇話会のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教員の負担をどのように軽減していくかということが一つのポイント</li> <li>○ 授業日数を増やすことで, どのように学力の向上につなげていくのか丁寧な説明が必要である。</li> </ul>

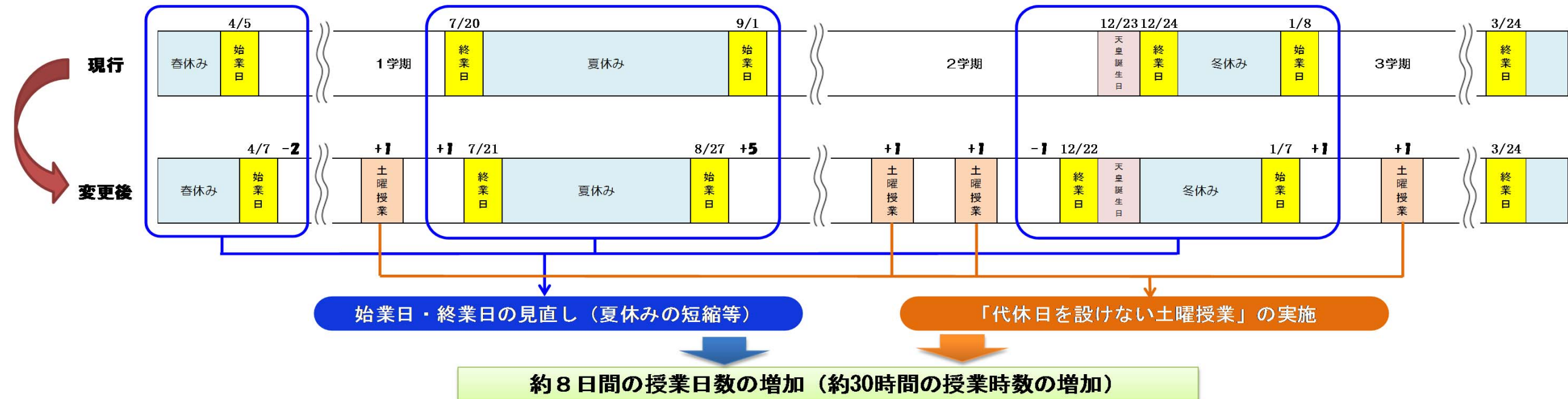
第2回懇話会 (H27. 8. 27)	
議題	① 保護者, 教員, 市政アンケート結果について ② 教育課程見直しに伴う授業時数の具体的な活用について
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者や市民としては, 学力向上の観点から見直しを実施してほしいが, 教員の負担増への配慮も必要である。</li> <li>保護者の約8割が賛同している。一方教員は, 賛同が約3割であるが, 予想より多く, 少し安心した。</li> <li>小学校の教員は, 日中子どもと常に向き合っていることから, 時間中に明日の準備の時間が確保できにくい状況である。</li> <li>日常的に生徒指導をしており, 勤務時間外にも業務が発生している状況</li> <li>実社会に出たら, 長期の夏休みはない。子どものときは, しっかり学んで, 生きる力を身につけてほしい。</li> <li>単に教員の業務を減らすのではなく, 教員が学力の向上をとおして, 手応えをつかめるような方向性も大切である。</li> <li>土曜授業については, これまでの地域とのつながりを活かしながら実施していただきたい。</li> </ul>
第2回懇話会のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教育課程を見直すことで, 児童生徒一人ひとりの課題に応じたきめ細かな学習を行い, 学力の向上を図るという方向性については, ほとんどが賛同であった。</li> <li>○ 一方で, 教職員の負担が増えることや休暇取得機会が減ることなどへの配慮も必要である。</li> </ul>

第3回懇話会 (H27. 9. 15)	
議題	① 教職員の業務改善を図るための支援策の検討について ② 土曜授業における教育内容について
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>国や教育委員会のアンケート調査が大変だと聞くので整理をお願いしたい。</li> <li>教員の勤務内容は特殊なので, 調査の数字だけの判断は難しい。</li> <li>学校の休みにくい組織風土の改善も大切である。</li> <li>夏休み期間は, 教員にとっては勤務日である。ただ, 勤務を要しない土曜授業の代休日をしっかりと取得できるようにすることが大切である。</li> <li>勤務時間が10年前と比べて伸びているのに, 夏休みを短縮するのは正直どうなのかなという思いはある。学校と教育委員会で一緒に負担軽減に向けた方法を検討していかなければならない。</li> <li>平成24年度に委員会が通知した土曜授業の考え方から, 今回の見直しで考え方が変わったので, アンケートでは, 教員の反対が多かったのだと思う。</li> <li>土曜授業については, 年1回は「福岡共育の日」などとして位置付け, 全市一斉で行い社会全体で学校にかかわる機会とすることが重要である。</li> </ul>
第3回懇話会のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今後も学校・教職員へ丁寧に説明していくことが必要である。</li> </ul>

2 教育課程見直しにあたって取り組むこと

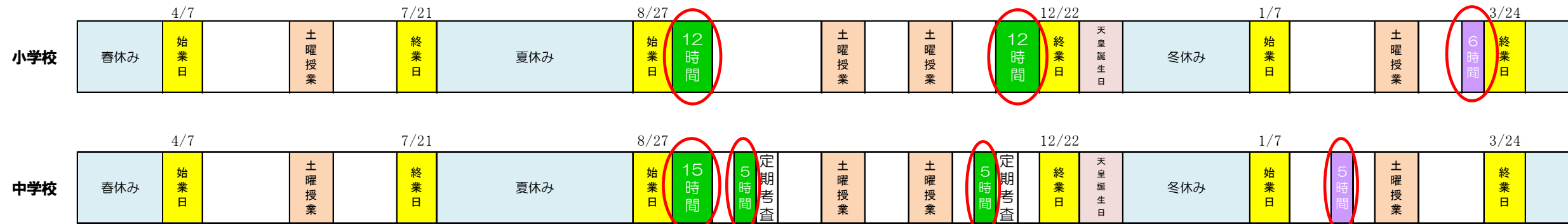
- 補充的な学習・発展的な学習を行っていくための教材を十分に整備し, 教員が新たに教材を準備する負担を軽減するとともに, 学校向けの具体的な指針を作成する。
- 教職員勤務実態調査結果の分析, 業務改善を図るための支援策の検討を行い, 平成27年度中に「ガイドライン」を取りまとめ, 教育委員会・学校が連携した取組を進める。(夏季休業期間中の教育委員会主催行事や研修講座の見直しを行う。教育委員会から学校への文書量を削減する。など)
- 土曜授業については, 年に1回は, 全市一斉での実施を検討し, これまでの地域とのつながりを活かしながら, 学校・家庭・地域による共育を進めていく。

教育課程見直しの内容



増加した授業時数（補充的な学習や発展的な学習）の実施イメージ

■・・・補充的な学習や発展的な学習の時間の配置例（■は、学校の実態に合わせ時期を検討する。）



※ここに示す補充的な学習や発展的な学習の時数は、およその目安である。年度や学校の実態に応じ若干の違いが生まれる。

授業時数を生み出す意義

・通常の学習では教科書の学習内容を進める必要があるが、今回新たに生み出す授業時数では、授業を先に進めるのではなく、児童生徒の学力課題に応じた学習を行い、確かな学力の定着を図る。

年間の時数の配置

・学習内容が最も多く内容も高度になる2学期に重点的に配置する。  
 ・小学校では2学期の始めと終わりに、中学校では、2学期の始めと定期考査前に配置する。さらに年間の要所に学習のまとめの時間を配置する。

指導の形態

・1人の教員が各教室で行う一斉指導  
 ・複数の教員が1つの教室に入って指導をするチーム・ティーチング  
 ・学級の枠を取り払い、児童生徒の実態に応じてコースを設定するコース別学習、習熟度別学習など各学校の実態に応じ、実施する。